

歴史探訪 戦国大名・相良義陽の進軍ルートを行く

12月2日、「戦国相良戦跡巡り」バスツアーが行われ、豊福長傳寺跡(松橋町豊福)の周辺住民のほか郷土史研究会や観光案内ボランティア、老人会など約40人が参加しました。宇城市観光物産協会の主催で豊福城址考の第3弾。

豊福城をめぐる争乱

1300年〜1500年代。豊福城(松橋町豊福)は相良氏、阿蘇氏、名和氏にとって所領安定と侵攻の最良拠点とされ、城をめぐる争乱が繰り返されました。豊福城を戦国末期に治めていたのが相良藩主第16代義滋、第17代晴廣、第18代義陽の3人。

響ヶ原の戦い

天正9(1581)年12月。阿蘇氏を討とうとする島津氏は、相良藩第18代当



豊福城跡(松橋町豊福)

県内数多くの中世城跡のうち、築城当時の原形をほぼ損なうことなく残す城跡。城をめぐる戦史が割合明白なため、肥後中世史研究の上で貴重な存在。



響ヶ原古戦場跡(豊野町)

戦場となったこの地には、義陽をはじめ戦いで死んだ多くの兵の魂をとむらうために供養碑が建てられました。相良義陽を祭った相良神社もあります。

バスツアーの主な行程

八代神社(妙見宮)→娑婆神峠→義陽軍の出陣ルート→相良神社で義陽公たちを供養するための神事→常楽院で昼食→豊福城跡→豊福長傳寺跡(義陽たちの供養塔が残る)

タンジア・カーン先生の

日本ふれふれ日記

ALTとして豊野中などで活躍中!

日本でのラマダン



私はイスラム教徒として24年間、ラマダンをバングラデシュで過ごしてきました。宇城市に来る前まで住んでいたロンドンにも大きなイスラム社会が存在します。しかし今住んでいる豊野では私はたった1人の(!)イスラム教徒です。この特別な時期に家族や友人と離れ、断食の葛藤を誰とも分かたることができませんでした。日本ではイスラム教徒のコミュニティーはとて小さいようです。

例えば京都には約350人のイスラム教徒がいます。ラマダンの時期に京都を訪れて出会った一人一人は私に刺激と楽観的な気持ちを与えてくれました。日本のイスラム教仲間によると「かつて日本には2つのモスク(※)しかなかったが今では50以上のモスクが存在する」とのこと。これは日本と世界中のイスラム教徒の信仰と寛容さの表れであり、私のような信者の兄弟たちの助けや支持のおかげです。

日本での断食は私にとって大きな挑戦となりました。断食をしていない人に囲まれて断食をするのは難しかったのですが、私の精神力を強めてくれました。この困難な時期について、すべての日本人が多なる親切と理解を示してくれたことに深く感動しました。日本での断食を通して、非イスラム社会でイスラム教の生活を送るといふ貴重な経験を得ることができたのです。

※モスク…イスラム教の礼拝堂。

ラマダン

最も神聖で霊的な期間とされるイスラム暦9月のこと。この1カ月間、毎年世界中の何百万というイスラム教徒が断食により神を体全体で認識し自らの生活を整える。断食は日の出から日没まで行われ、晩は少しの食事を取り、家族や友人を訪ねる。子どもや高齢者は夜明け前に軽食を取る。ラマダンは「Edi al-Fitr(断食明けの祭り)」で終わりを迎える(昨年は10月23日)。この時、人々は1番良い服を着て家を飾り、子どもにごちそうを与え、家族や友人を訪ねる。また月末に近付くにつれ人々は貧者に食べ物を施し、モスクに寄付をする。

市民レポートの目

宇城市の犬頭数と予防注射

古賀結美子

私が犬と散歩を始めて14年。朝夕、犬を連れた多くの人たちに出会います。ふと現在、宇城市にはどれくらい数の犬がいるのだろうかと思いつき環境衛生課を訪ねました。

飼い主には犬の登録と狂犬病の予防注射が法律で義務付けられています。しかし、すべての飼い犬が登録されているとは限りません。正確な数ではありませんが左記のとおりです。

狂犬病の予防注射は生後3カ月以上の犬に義務付けられていますが、これもまたすべての飼

犬の登録頭数	
宇城市	4,658頭 (H18.9月末)
熊本県	118,065頭 (H18.3月末)
全国	6,576,487頭 (H18.3月末)



い犬が注射を受けているわけではないようです。最近フイリピンで狂犬病に感染した日本人のことが話題になっていましたが、日本では長い間、ほとんどの飼い主が義務を遂行してきたからこそ狂犬病は発生していないのであり、これからもすべての飼い主が注射を受けてほしいと思います。さらに飼い犬が死亡した場合は「犬の死亡届出書」を環境衛生課に提出しなければなりません。取材のついでに「代表的な、あるいは印象的な犬の名前がありますか」とお尋ねしたら、「翔太」「裕太」「裕子」と教えてもらいました。犬はもはや家族の一員だということを、この命名が象徴しているように思いました。

派遣職員の東京見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県東京事務所企業誘致課の内富裕さんです。

夢なき者に、理想なし
理想なき者に、計画なし
計画なき者に、実行なし
実行なき者に、成功なし
成功なき者に、故に、夢なき者に成功なし

新年明けましておめでとうございませう。皆さんの2007年の夢は何ですか。冒頭は幕末の教育者、吉田松陰先生の「夢なきものに成功なし」という詩です。彼はわずか30歳という短い生涯の中で伊藤博文、高杉晋作をはじめとする若き行動者に多

岐にわたり影響を与えました。人間誰しも、人生において十人十色いろいろな人生観を持っているものです。目的達成のために1人コツコツと修練を重ね、自己啓発をしていく過程で明確な夢を持ち、それを断固たる決意で実現する時、成功への道が開けるのではないのでしょうか。

しかし必ずといっていいほどさまざまな弊害や苦難が立ちまわります。そこでどう実行するかが成功の鍵であると思えますし、「夢」を実行する上で大切なプロセスであると思えます。

また、家族、職場、社会に対して責任と自覚を持ちながら一人一人が確固たる信念と情熱ある行動をすることこそが「夢」の実現を成し遂げていくものだと思います。

吉田先生の説く「理屈を言うだけでなく、実行していくことの大切さ」を自覚して、私は自分の「夢」、家族の「夢」、そして宇城市の「夢」に向かって、今年も精一杯頑張っていきたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願ひします。